

第17回【合格体験記】

私立・専修大学松戸中学校に合格!

今回インタビューするのは、
I・T・O個別指導学院松戸二十世紀が丘校に通う小学校6年生のHさん。

今年の2月に、専修大学松戸中学校を受験し、倍率10倍以上の中、見事合格を果たしたとのこと。合格までにどのようなことを行なってきたのか、詳しく話を伺った。

Q 同校を受験すると決めた時期はいつ頃でしたか？

A 4年生のとき、同校の秋の文化祭に行ったときに、生徒さんたちが楽しそうに参加している様子を見て「ここに通いたい」と思い決めました。

Q 合格までにどのようなことに取り組みましたか？

A とにかく勉強ですね。暇があれば参考書を見て、復習をしていました。

Q 塾側はどのようなフォローをしてくれましたか？

A 自習室に行ったときに、わからないところがあればすぐに聞くことができたり、どのように勉強をすれ

ばいいのかを教えてもらえました。また、わからない所は図に書いて詳しく説明してもらえました。

Q 一番感謝を伝えたい先生は誰ですか？

A 神崎先生と長瀬先生です。神崎先生は入塾したときから担当してもらっています。長瀬先生は、苦手な算数を根気強くやることを教えてくれました。

Q では、印象に残っている出来事は何ですか？

A 6年生の夏休みと冬休みに、毎日自習室に行って勉強したことです。それが毎日当たり前のようになってしまいました。そこから、一日に勉強をする時間が一気に増えました。

最後に、「大手の進学塾に通っている子に比べると、私はあまり勉強をしていかなかったと思います。それでも第一志望の中学校に合格することができたのは、苦手なところを見つけて勉強を進められたからだと思います。本当にありがとうございます。ありがとうございました！」と話してくれたHさん。今後は私立中に通い、ハイレベルな

授業を受けることになっていくとは思いますが、これまで通り塾と二人三脚で頑張ってもらいたい。

■担当講師より一言

Hさんは小学校4年生のとき、塾に入会してくれました。志望校については、かなり早い段階から決まっていたので、そのレベルに到達するまでのカリキュラムと、その学校の入試傾向に合わせた対策を行なっていきました。しかしながら、中学校受験はそれだけで合格するのは難しい受験です。やはり、ご家庭の協力と、本人の並々ならぬ努力が実を結んだのだと思います。お母様は、本人の苦手なところを塾にお伝えくださったため、カリキュラムの修正が非常にスムーズに行なえました。Hさんは、辛い受験生活にも関わらず、最後まで第一志望の中学校に合格することをあきらめず、努力を続けてくれました。どれも欠けても、第一志望の中学校に合格することは難しかったのではないかと考えております。

Hさん、本当におめでとう！